

保護者のみなさまへのメッセージ

進路選択の際に、保護者としてどのように考え、
どのように子どもたちに接したらよいのか、お二人の方に伺いました。

大学の現場から

保護者の役割、子どもの役割をしっかりと
把握して、必要なときにアドバイスを。

女子栄養大学広報部長兼、理事長付部長

そめや ただひこ
染谷 忠彦さん



プロフィール

国際教養大学大学入学試験委員会委員兼務。現在は、進路指導勉強会、PTA総会、学校経営セミナー等の講演活動も精力的に行っている。前職の東洋大学では、先駆的な入試改革と斬新な広報活動を展開。国際教養大学開学に際してはアドバイザーとして準備段階から関わる。

アドバイザーとしての役割が 思春期の子育てのポイント

子どもの「進路選択」は、親子にとって重要な意味をもちます。子どもにとっては「自立」へと向けた大きな選択になるわけですが、最近では、親が子に干渉しすぎる傾向が見受けられます。これは、非常に問題です。親の過干渉が子の「自立」を妨げることとなります。

受験を控えた時期にある子どもに対しては、子育ての最後の仕上げとして「自立」を促すことに力を注ぐべきであり、子どもは、将来の目標とそれを実現するために進むべき道を自分の力で決定し、そこに向かって飛び込んでいくことによって、「生き抜く力」を持ち得ます。子どもに目的意識を持たせ、進路をきちんと決定できるようにすること、アドバイザー役に徹することが、思春期の子育てで最も重要なポイントとなります。

大切なのは現状を理解してのアドバイス

現在、高校生の卒業後の進路は、大学進学を志す割合が一番高くなっています。そして「大学全入」時代を迎えます。大学と名の付くところに行こうと思えば、誰でも入れるという時代です。これまでの親がもつ認識とは大きく異なる状況であり、高等教育機関自身が大きな変革へと動き出しています。ですから、アドバイスをするにしても、そうした現状を把握していないと子どもとの会話がなりたちません。親の情報収集の必要性がここにあります。

教育環境の確認も不可欠

今は、各種情報誌やインターネットでの情報収集が容易になり、また、進学相談会やオープンキャンパスといったイベント等で、大学も積極的に情報発信を行っています。そうした機会をできるだけ利用することをお勧めします。ただ、それだけでは充分ではありません。一番いいのは、大学には事前に連絡せずに、普通の日にキャンパスを訪れることです。授業風景を廊下から眺めたり、図書館や学生ホール、学食などで、学生の様子を観察するのです。これまでの人生経験から、親の目でみれば、学生が、ひいては我が子がちゃんと勉強できる環境かどうかすぐにわかるはずです。

受験生の立場で進路選択をする時、自分の学力レベルにあわせた志望校を選びがちですが、大学選びで重要なのは、教育環境が整っているかどうか、自分のやりたいことができるかどうかです。そうした点を、親の視点から見極めることが大切であるとともに、押しつけではないアドバイスを送ることが肝要です。